



▲エコライフ紀北の近くにある「エコパーク紀望の里」の浴場では、焼却処理を行なった際に発生する熱エネルギーを利用しています。

可燃ごみのリサイクル
可燃ごみは、エコライフ紀北で焼却処理しています。しかし、その可燃ごみもリサイクルされていることをご存じでしょうか。実は、可燃ごみを焼却処分する際に発生する熱エネルギーを回収し、発電などに利用しています。これは「サーマルリサイクル」といわれ、ごみそのものを再利用するのではなく、発生する熱エネルギーを利用するれっきとしたリサイクルです。



▲分別された生ごみ

生ごみの堆肥化
可燃ごみに含まれる生ごみの割合は約半分を占めています。この生ごみを減らすため、コンポスト容器の無料貸出制度や、電気式生ごみ処理機の補助制度などを活用していただき、市内の6,000世帯を超えるご家庭で、生ごみの堆肥化に取り組んでいただいています。

生ごみ分別トライアル
可燃ごみとして出された生ごみを資源として活用できるかどうかを調査するために、6月から9月の4カ月間、柿の木坂自治会がモデル地区となり、生ごみを可燃ごみと分ける「生ごみ分別トライアル」を試験的に実施しました。

生ごみの有効活用

次世代のためにできること
私たちは、石油や石炭など自然からたくさん資源をもらって生活しています。限りある資源を次の世代へ残すためにも、ごみの減量、リサイクルが最も重要です。資源となるペットボトルやその他プラ製容器包装を可燃ごみとして出していないか。もう一度、ご自身のごみの出し方について、考えてみてください。

「生ごみ分別トライアル」についてインタビュー

試験的な分別を実施した経緯などを柿の木坂自治会の野村区長に伺いました。



Q 生ごみ分別トライアルを実施したきっかけを教えてください

A 可燃ごみの臭いの元となる「生ごみ」をどうにかできないか、という発想が始まりです。可燃ごみ収集が週1回になると臭いの問題があります。現在、柿の木坂自治会では、夏場のみ週2回を求めています。市と話し合いの末、臭いの元となる生ごみのみを取り除く「生ごみ分別トライアル」を実施することになりました。

Q 6月から9月の4カ月間の生ごみ分別トライアルを通じて、お住まいの人の意識などに変化はありましたか？

A 約400世帯あるうちの半数が生ごみの分別に取り組み、多くの人が生ごみは分別できると意識するようになりました。

Q 生ごみ分別トライアルに取り組んだことへの感想は？

A 自治会員の理解を得るのに最も苦労しましたが、トライアル開始時には賛同してくれる人が増えたのでうれしかったです。

Q ごみの減量やリサイクルへの思いを聞かせてください。

A 市民の理解と学習の機会が少ないので、小中学校での実践や家庭での取り組みを推進し、次世代に継承することが地球環境への何よりの還元になると思います。



ペットボトルをリサイクルした傘



衣類の繊維をリサイクルしたシャツ



プラスチック製品をリサイクルしたカバン



ペットボトル・その他プラ製容器包装のリサイクル

集められたペットボトルやその他プラ製容器包装は、エコライフ紀北で圧縮・梱包し、リサイクル業者に引き渡しています。そして、ペットボトルはネクタイや傘、その他プラ製容器包装は、かばんや車止めの材料など、形を変えてもう一度私たちがのちに戻ってきます。



橋本市のごみ処理の流れ
ご家庭から排出されたごみは、橋本周辺広域ごみ処理場（エコライフ紀北）に集められます。種類によって、ごみを燃やしたり、リサイクルしたりしています。



埋立ごみのリサイクル
埋立ごみを減らす取組みとして、ご家庭で不要になった食器などを持ち寄り、必要な人に持ち帰っていただく「無料陶磁器リサイクル市」を平成26年度から開催しています。多くの皆さんに利用していただき、埋立処分されることなくリユース（再利用）されています。

また、残った陶磁器なども埋立処分するのではなく、リサイクル業者に引き渡し、細かく砕き砂状にしてガラスサンドや道路の塗装材としてリサイクルされています。

未来のためにできること、リサイクル

リサイクルとは、ごみを資源として再び利用することです。限りある資源やエネルギーを有効活用し、環境への負荷を軽減する「循環型社会」を実現するためのキーワードとなっています。私たち一人ひとりが「できること」から「少しずつ」、日常生活の中で実践していくことが大切です。限られた資源と地球環境を次世代に残していくため、今一度ご家庭から出るごみについて考えてみましょう。

【生活環境課】